成人式

校長　夏目　由美子

この原稿の依頼と共に、今年度のにかほ市成人式のパンフレットを金副会長さんが持ってきてくださった。私が赴任して最初に卒業証書を手渡した生徒達であり、もう成人式を迎えるのかと名簿と思い出す彼らの顔とを照らし合わせながら（実際は当時の個人写真もめくりながら）しばしの間、二年前を振り返った。

今回の成人式実行委員の三分の二は本校出身者であり、成人証書授与や誓いの言葉の代表も彼らが務めていた。ちなみに、総合司会は本校の事務職員兼松主事で、もちろん同じ中学校出身の幼なじみ達である。

一月十二日の式には、県外に就職した者も、短い冬休みに帰省中の進学組も万障繰り合わせて加わり、中学時代の恩師を囲んで、久しぶりにこのふるさとでなつかしくにぎやかなひとときを過ごしたことだろうと思う。市の担当者と打ち合わせながら準備を重ねていった実行委員達は、地元就職や家からそれぞれの進学先に通学しているメンバーだが、その中に佐藤栄治郎君がいる。

本校情報メディア科は、にかほ市のふるさと手作りCMの制作に毎年協力してきている。二〇〇九年度は県大会で念願の最優秀賞を獲得し、翌二月の東北ふるさとCMフェスティバルに出場、「ふるさとつながる心賞」をいただいた。そのCMの題材が、一年前の掛魚まつり前後に撮影取材した栄治郎親子だった。勇壮な金浦太鼓の音をバックに大きな鱈をかついで奉納に向かうまつりの様子と、荒ぶる日本海の波にもまれながら船の上で、「俺、漁師になる」ときっぱりと話す中三の栄治郎君。大賞のご褒美はこのCMが三百六十五日放映されることであった。（CMは本校HPのメディア科ミュージアムでご覧ください。）

高校では三年間野球に打ち込み、最後の夏の大会にはエースとしてマウンドに上がった。負けはしたが最後まで粘りを見せる明るい試合運びで、球場全体に本校の爽やかな印象を残す原動力となった。引退後周囲が次々に進路を決めていく中で、彼のあの言葉どおりの決心に全くの揺らぎはなく、卒業間近には小型船舶免許取得や実際に船に乗る研修などの漁師修行に入り、晴れて父の後を継ぐ漁業従事者となったのである。

卒業後も若い後継者として取材を受けた新聞や雑誌の記事を見せに校長室をたずねてくれたり、何度か「校長先生食べますか」と獲れ立ての規格外のお相伴に預かったりもした。

栄治郎君をはじめ、同窓生の地元にかほでの奮闘や進学先でのそれぞれの活躍振りを耳にすると嬉しくてならない。成人式を迎え、今度は一市民として、自己の責任を果たしつつさらに大きな夢に向かって歩んでいくに違いない。彼らの存在はまた、卒業後の原動力を養いつつある在校生にとっても強力な応援団であることは確かである。

情報メディア科 作品紹介

前号（昨年９月発行）に掲載できなかった今年度の作品を紹介します。地域貢献として年々、すばらしい作品ができあがっています。新年度の活躍にも期待します。ぜひがんばって下さい。

夢に向かって

27期　佐藤　正昂

二〇〇六年三月、仁賀保高校を卒業し、京都へ就職しました。しかし家庭の事情で実家に帰ってきてさっそく秋田で始めたのが十九才の時、クラスメート佐々木恵介と組んだ【ケースケ&マサ】というアコースティックデュオでの音楽活動です。

ご存知の人もいると思いますが、昨年秋に全国放送されたテレビ朝日のスペシャル番組『第三回全日本なまりうたトーナメント』に秋田代表としてソロで出演し、優勝してきました。秋田代表で日本一になれた事で秋田に明るいニュースを届けられた事が嬉しいです。

それからテレビ朝日から計三回呼ばれてなまりうたに出演してきました。次回の番組にも出演予定です。全国テレビに出ると知名度が上がり、イベント出演オファー、雑誌の取材、テレビ、ラジオ、ブログのアクセスも何十倍にもなりオファー殺到中です。しかしここまで来るのにも、好きな事だとはいえ大変なことも多くありました。

まず、ケースケ&マサを始めたきっかけは相方の恵介がライブイベントに勝手に二人でエントリーしたのが始まりでした。最初は遊び半分でしたがライブ後のお客さんの反応が『良かったです。CDありますか?』『ファンになりました』などや『全然まだまだだね』とか見向きもせずに通り過ぎていく人、全ての反応が目に見えてシンプルでわかりやすい事が魅力的で音楽活動にはまっていきました。そしてプロミュージシャンになる事が自分の夢になっていきました。

しかし周りの大人達の反応は一部冷ややかで『ちゃんとした仕事に就きいなさい』『歌で食ってくなんて無理だ』など言われた時もあります。

それを言われる度に『ちゃんとした仕事って何?ミュージシャンはちゃんとしてないのか?』と疑問でした。私は自分にしかできない事を為し遂げたいと小さい頃から思っていました。人の人生や思い出に凄く関わってくる音楽を作り出すミュージシャンはとても素敵だと思うし、自分の感性で作った曲で人を感動させられる事ができるこの仕事はとても魅力的だと思っています。これは他の仕事にも通じる事だとも思います。

私は周りから何を言われても少しもブレたことはありません。逆に酷評をバネにして次へつなげます。それは『ミュージシャンになりたいから』でもなく『俺がミュージシャンになる事はもう決まっている』からです。意識の問題でもありますがこの二つの意識はだいぶ違います。もちろん応援してくれる人もたくさんいます。楽しい事も辛い事もたくさんある音楽活動ですが、根気強く挑戦し続けた事で徐々にオファーが増えてきました。

ケースケ&マサは秋田県内を拠点に活動していきます。私が理想に思うのは秋田のアーティストとして全国へ発信していきたいということ。よく言われるのが、『秋田にいたってダメだから東京へいきなさい』『秋田で成功例ないから無理だ』これらは耳にタコができるほどに聞きました。

私はこう考えています。『成功例がないからこそ、やった人がいないからこそやり甲斐がある』ケースケ&マサはこの夢を絶対に叶えます。

夢に向かってやり続ける事でいつかチャンスが来るんだと今回実感しました。その時に最高の結果を出せるようにいかに準備しておくかが一番大事だと思います。それが自分の場合、歌唱力、アドリブ力、芸の幅広さでした。これは普段から常に芸に意識を置いて生活しているかです。私はこのチャンスを活かしてさらに芸を磨き地元への感謝を忘れず、秋田を代表するミュージシャンになれるように努力していきます。

後輩達へ、夢がある人はこの先どんな事があってもどんな形でも続ける事です。自分が何をやりたいか分からない人は、無理に探す必要はありません、これから何でもできるという事です。

人生を楽しむ事が一番大事です。ケースケ&マサも頑張るので皆さんも一緒に頑張って夢を叶えましょう！